

教育委員会評価に対する意見

(1人1台端末の活用は不可欠)

社会人が、問題解決活動をする際に、端末(PC等)が不要であるという人はいないでしょう。現代の学び方とは、端末とともにあるとあってよいはずで、このように考えれば、学校においても問題解決活動のお供としてや、学び方を身につけるためにも、端末を積極的に活用すべきであり、子供たちが真の意味で問題解決を学ぶには、1人1台端末が自在に活用できることが欠かせません。

そのためには、GIGAスクール構想の標準環境として整備された汎用のクラウドサービスを活用できる状態にしておくことが必要です。また子供への指導の前に、教師自身が少しずつ自分の力を拡張させていき、自分の力になっていくような感覚を体験してみることが重要です。

(教育委員会評価「4学校教育(15)GIGAスクール構想」等について)

教育委員会の自己評価にあるように、まずは児童生徒が少なくとも「毎日活用する」状態にすることが必要です。教員研修において有効に活用できているのであれば、日々の授業においても、より有効に活用できる素地があると言えます。教師たちにとって「利島村に来たら、ICTを使いこなせるようになった」という状態になるよう、教育委員会の後押しが重要であると考えます。

専門分野から見た、利島村の現状・改善点・期待等

(「GIGAスクール構想×少人数×離島」の可能性)

「少人数×離島」という利島村の環境は、GIGAスクール構想を進めるうえでは絶好の環境です。児童生徒数が約30人であれば、例えば、小学校高学年から中学生は、自らが学習計画をデジタルで作成したり修正したりして、自律的な学び、自己調整的な学びができるように教師が支援していくことで、「個別最適な学び」を進めることも可能でしょう。また、ある学年の児童生徒数が極めて少ない場合、同様の環境にある他島の学校と日常的に交流することで、同学年の友人が増えるかもしれません。これらは一例ですが、利島村の事情を踏まえた先進的な取組を行い、ぜひ全国の離島の教育を引っ張ってほしいと思います。

(まずはやってみよう)

学習指導要領において、情報活用能力が言語能力や問題発見・課題解決能力とともに、「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけられている中、もはや1人1台端末は「活用して当然」です。現状、利島村のICT支援事業者は、利島村の状況を「孤軍奮闘の活用で、まだまだ学校全体での活用への意識統一が弱い」と指摘しています。よく「ICTを使うことが目的になってはならない」という言説があり、それ自体は正しいのですが、そのことが「使わない理由」になっている例が散見されます。実際、今ICT活用が進んでいる学校は「まずはやってみよう」の方針で取り組んできた学校です。「デジタルよりもやっぱり紙」という主張は「自転車には乗り慣れていないから、徒歩の方が便利」と言っているようなものです。来年度、利島村における1人1台端末の活用を推進するため、教育長や学校管理職の強いリーダーシップに期待します。

以上